

環境エンリッチメント実践型ワークショップを開催しました!

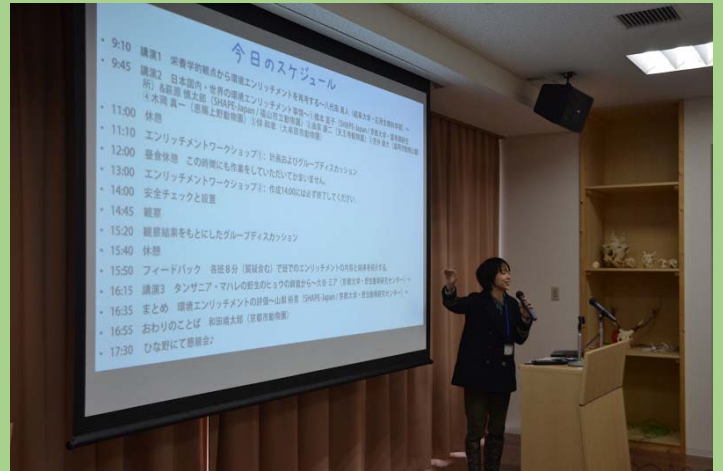
2016年1月30日(土)、全国から動物園・水族館関係者と研究者・学生が集まり、環境エンリッチメント実践型ワークショップを開催しました。環境エンリッチメントとは、飼育動物の種本来の性質を尊重し、かれらが心身ともに健康な生活ができるように飼育環境におこなう工夫のことです。

今回、日本における環境エンリッチメントの発展を目指す団体SHAPE-Japanとの共催で、講演ともうじゅうワールドの動物を対象とした環境エンリッチメントの実践を組み合わせたワークショップを開催しました。

今回は、関係者のみの限定イベントだったため、下記に当日の様子を報告します。



開会のあいさつ(田中センター長:生き物・学び研究センター)



一日の流れの説明です。



岐阜大学の八代田先生による基調講演。



全国の動物園の飼育担当者による環境エンリッチメントの講演が続きます。こちらの写真は恩賜上野動物園の木岡真一さんです。



ライオン・トラ・ジャガー班に分かれて、用意された材料をもとにどんなエンリッチメントが必要か、可能かを考えていきます。



環境エンリッチメント実践型ワークショップを開催しました!



実際の作成に入ります。



作成が終わったら、岡橋係長・長尾係長による安全チェック。



安全チェックが済んだものから、設置していきます。

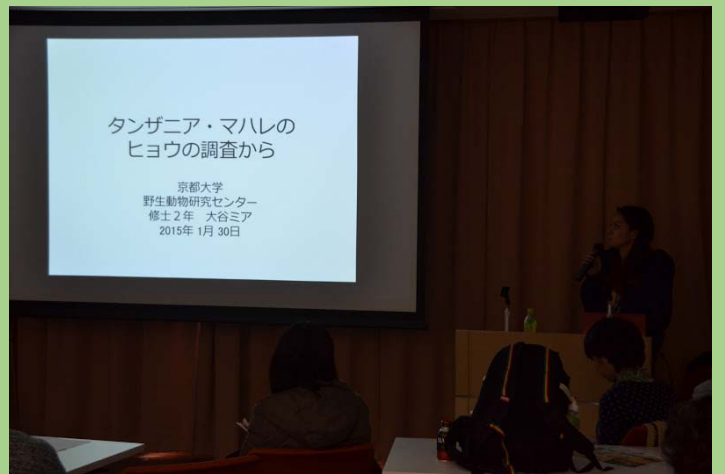


動物たちが出てきました!みんな興味津々です...。いつになく張り切るナイル(ライオン)、なかなか食べ物がとれず苦戦するアサヒ(ジャガー)、ボールがお気に召したオク(トラ)。なんとプロの解説付き!写真は福山市立動物園の萩原慎太郎さん。

環境エンリッチメント実践型ワークショップを開催しました!



観察終了後、各班で話し合い、結果を共有します。各班で何を考えてエンリッチメントをおこなったのかが発表されます。常同行動を減らす、高齢個体のケア、種本来の行動の発揮などさまざまな視点からエンリッチメントがおこなわれました。



夕方の講演タイムです。京都大学の**大谷さん**による野生のヒョウの調査についてのお話です。心はアフリカに...



一日の最後には、環境エンリッチメントの評価について、京都大学の**山梨さん**。

最後は、生き物・学び研究センターの**和田さん**による終わりの言葉でプログラム終了です。

動物たちの暮らしをよくするために全国から来た参加者が心を砕いた一日でした。おかげさまで翌日もアサヒ(ジャガー)はいつもより忙しい日を過ごしているようでした。

主催: SHAPE-Japan 共催: 京都市動物園
 協力: 京都大学研究大学強化促進事業「百家争鳴」プログラム
 後援: 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンスリーディング大学院、京都大学野生動物研究センター、科学研究費補助金 基盤研究(S)「野生の認知科学: こころの進化とその多様性の解明のための比較認知科学的アプローチ」、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)

